

現在の生態学的関連種への配慮に関するニュージーランドの提案

提案

この文書は、みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）による現在の生態学的関連種への配慮に関するニュージーランドの提案を概説するものである。メンバーは、戦略・漁業管理作業部会とともに科学委員会のあり得べき任務についての検討及び決定が求められる。

序文

CCSBTは、1995年に生態学的関連種作業部会を設置し、それ以来この作業部会は8回の会合を持ち、直近では2009年に韓国で開催した。

それにもかかわらず、みなみまぐろ（SBT）漁業において捕獲される生態学的関連種（ERS）を管理することについてのCCSBTの今日までのパフォーマンスは、CCSBTの内外からの批判の対象となっている（別添1：パフォーマンス・レビューのコメント及び別添2：CCAMLRのコメントを参照）。

かかるパフォーマンス・レビューにおいて提起された懸念に応じて、第15回CCSBT年次会合は、みなみまぐろ漁業における生態学的関連種漁業への影響を緩和するための勧告を採用した。当該勧告は、とりわけ、拡大委員会及び/又は必要に応じて補助機関は、SBT漁業がもたらすERSに対するリスク評価を実施することについて明記している（パラグラフ7）。

第8回生態学的関連種作業部会(ERSWG)会合は、2009年9月1日から3日まで韓国、釜山にて開催され、「当初の世界的なERSの死亡推定値」を作成するため(議題項目5.1.1)、ERSに関連するデータの評価(当該勧告パラグラフ3)に焦点を置く議題が設定された。多くの理由で、ERSWGはこの目的を遂行することができず、また、当該勧告パラグラフ7で記述された評価にも取り組むことができなかった。

また、ERSWGは、当該作業部会の次回会合の開催時期についても議論した。当該会合は、拡大委員会に対して、2012年の前半までERSWG会合を延期することを含め今後の会合のオプションを検討するよう要請した。さらに、会合で合意された勧告に対する進展が拡大委員会及び/又は拡大科学委員会（ESC）を含む

補助機関の年次会合においてモニターされるべきであることが合意された（13ページ、パラグラフ88）。

事務局による翻訳